

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

帯広市立明和小学校

学力について

平成31年4月18日に実施された全国学力・学習状況調査の結果が公表され、本校の結果も届きました。

平成19年度より行われている本調査は、国語と算数について、主に教科の知識に関するもの（A問題）と主に活用に関するもの（B問題）で調査してきましたが、今年度より知識・活用を一体的に問う調査問題へ変更となりました。今年度の明和小学校は、国語、算数とも全道平均を下回る結果となりました。



国語

- 全ての領域において、全道・全国の平均正答率を下回っています。「書くこと」の領域に課題が見られています。
- 漢字の書き取りは、3問中2問で全国同様、もしくは上回る結果となりましたが、同音異義語の問題では、全国平均正答率より低くなりました。
- 接続語を使い文を分けて書く問題では、全道・全国平均正答率を下回っています。また、無回答の割合も高くなっています。
- 各問題において、全道、全国と比較すると無回答の割合が高い傾向が見られています。

算数

- 全ての領域において、全道の平均正答率を下回っています。
- 棒グラフを正しく読み取るなど、全道・全国平均正答率を上回る問題もありました。
- 領域では「図形」「数と計算」に課題が見られました。また、記述式の問題では全道・全国平均正答率より低く、無回答率の割合が高くなる傾向が見られています。

学習状況について

- 生活習慣や学習習慣が高い傾向が見られました。
- 朝食を毎日食べる、毎日同じ時刻に寝ていると答える児童が多い傾向にあります。
- 読書が好き、新聞を毎日読んでいると答えた児童の割合が全国よりも高い傾向が見られました。
- 「自分にはよいところがある」という自尊意識や「きまりを守る」という規範意識が低い傾向にあります。

そこで学校と家庭では・・・

学校では・・・

- ① 基礎・基本の確実な定着
 - 学習時間に定着問題に取り組む時間を保障する。
 - 家庭学習や朝学習で漢字や計算の反復学習に取り組む。
 - 学習場面で、資料や問題文を読む体験を積み重ねていく。
 - 習熟度別少人数指導を効果的に活用する。
 - ICTの効果的な活用
 - チャレンジテストの活用
- ② 組織としての授業改善
 - 1時間の授業の流れの確実な定着（課題とまとめ、伝え合う場面が明確な授業）
 - 校内研究の視点「ユニバーサルデザイン」を意識した「わかる」「できる」を実感できる授業づくり
 - 学習の足跡がわかるノートづくりへの取組
 - 各種調査結果の早期分析、改善プランへの反映
- ③ 学習規律や学習習慣の定着
 - 学習規律の徹底と話し合いの仕方の指導
 - 家庭学習の取組推奨（手引き）と励まし
- ④ 特別の教科道德の授業の充実
 - 授業を通し、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

家庭では・・・

「よくわかる！明和小学校」を活用して
よりよい学習習慣、生活習慣の定着を

- ① 家庭学習や読書週間の育成・定着（家庭学習の手引きを活用）
 - 10分間×学年を目標に！
 - 時間帯を決めて毎日継続を！
- ② よりよい生活習慣定着に向けて
 - 「早寝・早起き・朝ご飯」（生活リズムチェックシートの活用）
 - テレビやゲームの時間を減らし、家庭学習・読書・だんらんの時間に